

## 令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「『物』『知識』『意識』を備える」

福岡県 小郡市立三国小学校 6年 <sup>おおむら</sup>大村 <sup>はるこ</sup>晏子

私は、福岡県に住んでいます。7月21日から22日にかけて大雨がふり、土砂災害が起きる危険が高くなりました。この出来事から、土砂災害が起きそうなとき・起こったときにできることについて調べてみることにしました。

私が土砂災害について調べるために向かったのは、久留米市にある久留米広域消防防災センターです。久留米広域消防防災センターでは、土砂災害などの風水害だけでなく、火災や消防設備、地しんについても、体験しながら学ぶことができます。

まず、土砂災害について学びました。土砂災害は主に3種類あります。1つ目は急けいしゃ面のほうかいです。雨により土が大量の水をふくむことで、地ばんがゆるみ、急なしゃ面がくずれ落ちてきます。がけから水がふき出したり、がけから小石が落ちてきたりするのが前ぶれです。2つ目は土石流です。雨による大量の水が、谷にたまった土砂や石をまきこみ、一気に流れ下ります。3つ目は地すべりです。雨による水が地面のすべりやすいそうにしみこみ、その上の地そうがすべり落ちます。樹木・電柱がかたむいているところで起こりやすく、沢や井戸がにごったり、地面にひびが入ったりするのが前ぶれです。これらを覚えておけば、土砂災害が起こりやすそうなときと場所に気付き、命を守ることができると思います。

次に、気象庁や自治体が行っていることについて学びました。自治体は、それぞれの地域のハザードマップを作っています。また、今年から土砂災害の防災情報の伝え方が変わりました。警戒レベル4で全員ひ難しなければなりません。それらの情報を理解し、行動しなければならないと思いました。

さらに、私たちが日ごろから備えられることについても学びました。まず、災害が起きたら、身の安全を確保します。次に、ひ難をします。そのときに気をつけることは、単独行動をしないことです。ヘルメットか頭巾・軍手・雨がっぱ・運動ぐつは災害が起きる前から準備をしておきます。ふ段は、ひ難経路・危険個所の確にんをしたり、非常用品を最低3日分用意したりします。また、久留米広域消防防災センターの方は、

「地域・近所の人、特に、家がとなり同士の人と助け合うことがとても大事です。」とおっしゃっていました。

これらのことを通して、一番大切だと思ったのは、日ごろから『物』『知識』『意識』を備えるということです。『物』を備えるは、非常用品を備える。『知識』を備えるは、土砂災害についての知識を備える。『意識』を備えるは、いつ災害が起こってもおかしくないという意識を備える。これらを備えておけば、自らひ難の判断ができ、少しでも身の安全を確保できると思います。また、学んだことを周りの人にも広めていきたいです。